

## 目 的

小児のカルシウム代謝異常の実態に関してはまだ不十分な点が多いので、それを出来るだけ明確にし、この疾患対策に寄与する基礎資料を収集分析することを目的として調査研究が行われた。また併せてこの疾患診断手引作成のため正常値など基礎資料についても検討を加えることにした。

## 研究方法

- (1) 調査表を173施設に送り、うち54施設から回収し、今回の調査成績をまとめた。
- (2) 正常値作成について各研究班の間で協力し血清アルカリホスファターゼ値、カルシウム値、パラソルモン、カルシトニン値、ビタミンD値などにつきまとめた。さらにEllsworth-Howardテストを検討した。

## 結 果

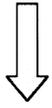
各班員により、それぞれの項目を決めて集計を示した。正常値については、報告書に付した。

今回の調査で得た問題をまとめる以下の如くである。

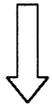
- (1) 調査にあたり情報を多く得る目的で調査項目を多くしたことが回収率にひびいたと思われるが、しかし一方ではかなり正確な様子を把握出来たと思われる。
- (2) Ellsworth-Howardの標準化、特に新生児、乳児で判定基準に問題があり、今後さらに検討を重ねるべきという結論であった。
- (3) 集計した症例のなかには、一部診断そのものに問題のあるものもあり、診断基準の設定が望まれた。
- (4) VD欠乏症に地域差のあることが判った。未熟児も含めVD必要量の検討が要る。
- (5) 治療のなかでも特にステロイド性骨粗鬆症について、より詳細な検討が今後必要と思われた。

表1 カルシウム代謝異常

Vit D 依存性クル病 I	7
II	1
Vit D 欠乏性クル病(未熟児は含まぬ)	15
特発性副甲状腺機能低下症	26
乳児一過性副甲状腺機能低下症	12
(新生児一過性副甲状腺機能低下症)	8
偽性副甲状腺機能低下症 I型	18
II型	4
偽性偽性副甲状腺機能低下症	3
Di George 症候群	5
手術後副甲状腺機能低下症	2
低リン血症性クル病	74
Fanconi 症候群	9
Lowe 症候群	19
腎尿細管アシドーシス	11
腎糸球体尿細管障害	29
高カルシウム血症	12
低ホスファターゼ症	5
骨粗鬆症	22
	282



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 結果

各班員により,それぞれの項目を決めて集計を示した。正常値については,報告書に付した。

今回の調査で得た問題をまとめる以下の如くである。

(1)調査にあたり情報を多く得る目的で調査項目を多くしたことが回収率にひびいたと思われるが,しかし一方ではかなり正確な様子を把握出来たと思われる。

(2)Ellsworth-Howard の標準化,特に新生児,乳児で判定基準に問題があり,今後さらに検討を重ねるべきという結論であった。

(3)集計した症例のなかには,一部診断そのものに問題のあるものもあり,診断基準の設定が望まれた。

(4)VD 欠乏症に地域差のあることが判った。未熟児も含め VD 必要量の検討が要る。

(5)治療のなかでも特にステロイド性骨粗鬆症について,より詳細な検討が今後必要と思われた。